



Lead【ニュース】

■平成30(^{つちのえのいぬ} 戌 戌)年を迎えて■

育ちあいのひろば 統括・短大教員 石井章仁

“少子化元年”から30年たって 新年あけましておめでとうございます。

どうとう平成も30年を迎えました。平成元年が「1.57ショック」といわれ、少子化社会到来を告げる年だったため、そこから早くも30年たったという感慨があります。*そもそも1.57ショックは、昭和41年「丙午(ひのえうま)」¹の合計特殊出生率(女性が一生のうちに生む子どもの数の平均値)1.58を下回ったため、そう表現されました。

当時はまだ、男性中心社会。女性の社会進出も鈍く育休もなく、フレックスやテレワークなど様々な働き方もできなかった時代です。世の中はバブルが弾け、気づけば深刻な少子高齢化社会となっていました。結婚や育児に対する様々な考え方が一般的になり、働き方も変わり、女性の社会進出も当たり前になってきたにもかかわらず、一方で保育所は少なく、保育時間もまだ短く、子育ては“母親”に委ねられていました。「成人したら会社に終身雇用されて、結婚して、子どもを生み、マイホームを建てる」ような“絵に描いたような”総中流意識自体は、このころから崩れてきたのかもしれない。

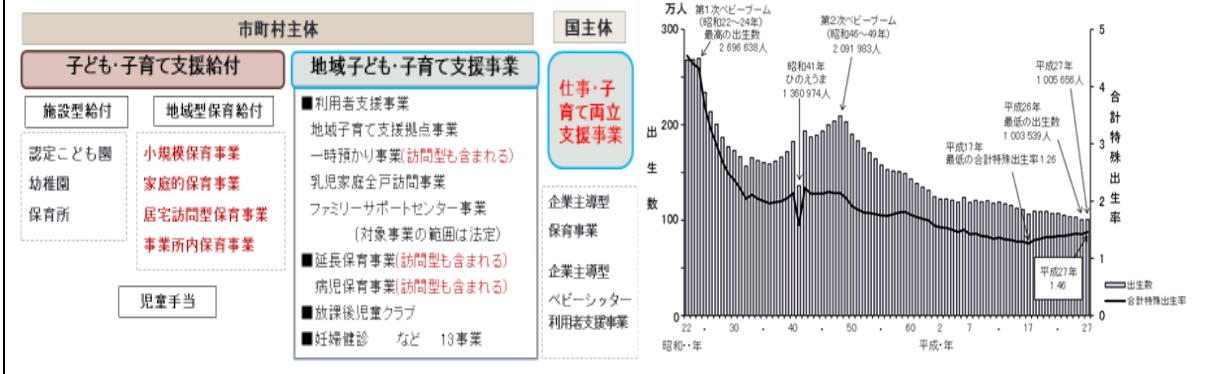
日本の「子育て支援」は、こうした時代背景の下で始まった、比較的歴史の浅い取り組みです。育ちあいのひろばたいむやリラックス館、保育所などの「子育て支援事業」の取り組みもこの頃から少しずつ増えていきました²。子育て支援は、当初、「子どもを生み育てやすい社会の実現」が目指されており、「働きながら子育てをしやすい社会づくり」を目指し、保育所や学童保育の拡充・整備を中心になされました(1995年からの10年間の総合的な施策である、「エンゼルプラン」では特に「緊急保育対策5か年計画」を軸にされていました)。

しかし、これだけでは少子化は止まりませんでした。「育児負担感」は、共働きの家庭よりも専業主婦家庭の母親の方が高いことが分かってきたからです。そのため、「全ての子育て家庭への支援」「雇用する企業の子育て支援」、次の世代の親を育成する「次世代育成支援」なども少子化対策として盛り込まれてきました。この30年で、少子化や子育て支援に関する考え方や取り組みは大きく変わってきたのです。

¹ 丙午(ひのえうま)は、十干十二支(今年は戌戌)の一つ。60年に一度、丙午の年になります(次は2026年)が、「丙午(ひのえうま)年の生まれの女性は気性が激しく夫の命を縮める」という迷信もありました。これは、江戸時代の初期の「丙午の年には火災が多い」という迷信が、八百屋お七が丙午の生まれだとされたことから、女性の結婚に関する迷信に変化して広まって行ったとされます。この迷信が昭和まで残っており、子どもを生み控える人が一時的に多かったのです。

² 保育所の子育て支援事業は1995年頃から、リラックス館(地域子育て支援拠点事業)は2000年代初頭頃から、千葉明德短大の子育て支援は1998年頃からそれぞれ始まっています。

子ども・子育て支援法に基づく給付・事業の全体像



現代の子どもに必要なこと

子どもの生活も大きく変わってきました。地域社会は昭和 40 年代から崩壊しはじめ、現代では夜型社会、車社会、共働き家庭の増加、ひとり親家庭の増加、貧困、児童虐待の増加など、新たな問題も出現してきました。小さなころから習い事を行ったり、子どもの生活も忙しくなってきました。

平成 30 年から施行される新たな学習指導要領や幼稚園教育要領・保育所保育指針などでは、「非認知能力」を育てることが求められています。これから 20 年後には、AI(人工知能)の普及により、今ある仕事の 49% がなくなってしまうという試算も出されています。これまでは、「知識」をどう得ていくかということが教育のメインストリームであったのですが、今後は、情報化、グローバル化など急激な社会的変化の中でも未来の作り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる教育が求められてきます。

「人口知能やロボット等による代替可能性が高い職業」のうち、馴染みある 10 職業	AI やロボット等に代替されにくい 10 職業
1 : 医療事務員	1 : アナウンサー
2 : 受付係	2 : 外科医
3 : 新聞配達員	3 : コピーライター
4 : ホテル客室係	4 : マーケティング・リサーチャー
5 : 銀行窓口係	5 : インテリアデザイナー
6 : 警備員	6 : アロマセラピスト
7 : 路線バス運転者	7 : 雑誌編集者
8 : タクシー運転者	8 : ファッションデザイナー
9 : スーパー店員	9 : フラワーデザイナー
10 : 宝くじ販売員	10 : 医療ソーシャルワーカー

非認知能力とは？

代表的なものの例としては、自己の理解/表現/調整・他者理解・感情の理解/表現・コミュニケーションなど。アメリカの調査「ベリ－幼児教育計画」では、認知的能力のみならず非認知的能力が高まるような幼児教育を行うことで、学習到達度、所得、犯罪率などに差がみられました。就学前教育の「質」や「年数」が、その後の認知的及び非認知的能力の発達に肯定的な影響を持つと報告されています。

育ちあいのひろばとしての平成 30 年

育ちあいのひろばたいむは、小さな組織です。利用者のみなさんと共にこうした時代にふさわしい事業を展開していきたいと考えています。社会が変わり、子育ての環境が変わる中で、新たなものに挑戦しながら、真に大切にしたい事は守っていきたくと思っています。この平成 30 年は、一つの区切りとなる年だととらえています。附属幼稚園のこども園化し、校舎のすぐ脇に低年齢児の保育室ができます。年度末の3か月で今年度の評価と次年度の計画を立て、新たな年に向かっていきたいと考えています。

■ たいむが行うリズム室あそびとは ■ 12月14日(木) 10:00～12:00

例年、年に数回程、短大の学生が授業で使うホール(リズム室)を使用し、巧技台や滑り台などの大型遊具で遊ぶ時間を設けています。室内とはいえ、思いきり身体を動かして遊べる空間や環境を作ることは子どもたちの心身の成長に欠かせない大切なことだと考えているため、普段のたいむ室内の静のあそび中心から、今年度は、動のあそびにも重きを置くことにしました。リズム室あそびは、広い空間を使い、《物をまたぐ、斜面や段差の昇降、跳ねる、飛び降りる、走る、蹴る、ぶら下がる》など、子どもたちの年齢と身体的な発達に沿った遊びを取り入れ、親子でのびのびと遊べる時間となっています。

今月は、前回よりも巧技台に変化をもたせ、子どもたちが自発的に遊べるように工夫してみました。まずは、平均台に高低差をつけ、低い台・少し高い台と二通りを用意し、それに接続する梯子にも少し傾斜をつけてみることにしました。そうすることで、手と足を使って梯子を登るという動きに繋がり、身体の動きが増えるとともに、「やってみたい」という子どもたちの意欲にも繋がるかの考えです。また、巧技台には、ハイハイをする時期の低年齢でも遊べるように、初めて板(滑り台になる)と人気のあるジャンプ台も接続してみました。



今回は巧技台に変化をつけることを中心にしましたが、フープやトンネル、滑り台といった定番になっている遊具の他に、キャンディー型の長い棒も用意しておいたことで、誰が教えたのではなく子どもたちが協力し合って棒を《運ぶ》、お母さんがバナナボートのように《引っ張る》といった遊びに発展していきました。

巧技台の方は、10ヶ月から3歳と幅広く遊ぶことができ、1～2歳の子どもたちはお母さんと手を繋いで挑戦していました。なかには、高い平均台にも物怖じせず挑戦する2歳の男児もいました。3歳の子どもたちは主に梯子に挑戦し、最初は棒の部分のみをまたいだり、平均台のように渡ろうとしたりする姿が見られましたが、何度か自分で挑戦していくうちに傾斜のついた梯子は手と足を使えば登りやすい(渡りやすい)と気がついたようでした。もう一つの巧技台に接続した板は、坂道のように上る・下るといった他にも、10～11ヶ月の子どもたちがハイハイで上ろうと挑戦しては途中で滑って着地してしまうというのを何度も繰り返しながら、

やっとの思いで頂上にたどり着くことができた時には、周りの大人たちに「上手にできたね」「頑張ったね」とたくさん拍手され、とても良い笑顔でした。

リズム室あそびも大分パターン化していたこともあり、遊びが続かなかないことも多々ありましたが、数ヶ月前から少しずつ遊びに変化をつけていたことが良かったのではと感じています。当日は、どの年齢の子どもたちが多く参加するのか解らないことも難しいところですが、子どもたちが興味をもつであろう遊びや発達に沿ったものを意識するだけで、スタッフの予想を上回る遊びが展開されています。

子どもたちは日々成長しているので、どんなに低年齢でも『先月はできなかったことが、今月は一人でもできた』ということとは沢山あります。そういった、個々の成長をみんなで喜び、認め合い、「やってみたい」という意欲や「できた」という達成

感を大切にしながら、大人も子どもも一緒になってリズム室あそびの短い時間を楽しむことも良いのではないのでしょうか。0歳から3歳と年齢の幅は広いので、こういう場での子ども同士の刺激があることは良いことだとも考えているので、引き続き、試行錯誤しながら企画をしていきたいと思います。（本田）



* バナナボートあそび



* 傾斜を登ろうと頑張る様子



* 梯子渡りに挑戦

■ はじめてのミテテ+（プラス） ■

先月、1歳9ヶ月のMちゃんが初めて一時保育のミテテ+を利用し、お母さんも「預けたことがないので心配。でもここならできるかもしれない」ということで、期待と不安が交じり、当日の朝を迎えました。

母親と子ども、親子間での「いってらっしゃい」「待っているね」というような挨拶をしてから、お預かりをすることが望ましいかと思いますが、今回は初めてということもあり、Mちゃんが遊んでいる間にお母さんはそっと抜けていきました。最初は部屋中を探す姿が見られたものの、泣くこともなく大きな一歩を踏み出すことができました。その姿を見た周りのお母さん達からは、「Mちゃんはすごいね」「うちはきっと無理だわ」と様々な声が聞こえてきました。お友だちのHちゃん親子が来室した際には、とても嬉しそうな表情を見せたMちゃんでした。

子育て中は、子どもはもちろん可愛いのですが、いつも一緒だと時にはしんどくなったり、一人の時間も欲しいと思ったり、様々な気持ちになります。今は昔と違い、お母さんが一人で子育てをする機会が多く、不安やストレスを抱え込むことが増えているのが現状です。「悩みを打ち明けたいけど解ってもらえるか」「こんなことで弱音を吐いていいのか」など、不安や悩み、ストレスも人それぞれです。

「我が子を預けたいけど、預ける場所も人もいない」「預けることは、子どもにかわいそうな思いをさせてしまう」など、一生懸命子育てを頑張っているお母さん程悩みは尽きないのかもしれませんが。実際にお子さんをお預かりしてみると、長時間泣く子、少し泣く子、すぐに遊び始める子と、子どもの姿も様々です。

少しの間、親子離れてみることで新たな発見があるかもしれません。子育て中のみんなが集まる場所(たいむ)だからこそ、みんなで声を掛け合って見守っていく、そんな温かい雰囲気の中でミテテ+ができればと思います。（村上）

◇ 学生による読み聞かせ ◇

短大教員 池谷潤子

今年度の池谷ゼミでは「うたとおはなしのひろば」を前期6回、後期4回開催させて頂きました。学生の授業時間の都合もあり、短大のお昼休みにあたる13時からの約30分間ですが、たいむに遊びにきている方々と一緒に手遊び、絵本、パネルシアター、季節の歌を楽しみたいと思って始めました。

参加した学生たちは2年生13名です。この1年を通して、学生たちの表現力、空間・雰囲気づくり、お互いに演じる方法を検討すること、ふりかえりでの助言など、1つのゼミとして互いに支え合いながら、話し合いを通して少しずつ育ちあっている姿を見ることができました。

前期はどうしても緊張してしまう学生が多く、声も小さく、笑顔で語りかけることができない学生の表情から、見ているお母さんや子どもたちの方が緊張してしまったのではないのでしょうか。また6月に幼稚園実習があるため、幼児向けのパネルシアターが多くなり、『もう少し小さい子どもたちが楽しめるような作品が必要だった』など、学生たちも手探りのなかで、子どもたちの年齢にあわせた作品を探したり、お互いの演じ方について助言をするようになり、回を重ねるごとに演じる作品の傾向や学生の表情が変わっていきました。6月の幼稚園実習を終えてからは、子どもたちと共に演じることを楽しめるようになり、子どもたちの声や視線、表情や動きにあわせて、アレンジしながら楽しく演じていくことができるようになりました。前期には高校時代に吹奏楽部でクラリネットを吹いていた学生が演奏する機会がありましたが、1月にはフルート、チェロ、トランペットなど、学生による楽器のアンサンブルもできればと考えています。

後期は、パネルシアターだけでなく、音楽表現や身体表現の授業で学んだことを自分たちなりにアレンジして、子どもたちと楽しんでみよう！ということになり、12月には風船太鼓作り、リズム楽器遊びを行ない、1月にはわらべうた、素材遊びを行うことになっています。

就職を目前に控えた学生たちですが、活動のイメージを共有していても具体的なことまで話し合っていないと、いざ子どもたちや保護者の方々に前を前にすると思ったように声かけができず、消極的になってしまうような場面もあり、いつもの澁淵と



した学生たちの姿からは想像できないような中途半端な展開になってしまふこともありました。臨機応変に対応するためには、十分な計画と多くの経験が必要であることに気づいたことと思います。そのような失敗も多ありますが、たいむのスタッフの方々、子どもたちや保護者の方々まで温かく見守って頂きながら助言を頂いたり、自分たちで考えてみたり、次回の活動に活かしていくような場を頂けることに感謝しています。来年度のゼミでも、学生たちと「うたとおはなしのひろば」を開催できればと考えています。ご意見、ご感想、提案などを頂けたら嬉しいです。

◇ おはなし会(あそび実践演習) ◇ 12月6日(水) 13:00~13:30

短大教員高森先生の授業で、手あそびや絵本・パネルシアター、体操などを行いました。初めて保護者がいる前で行う学生もいて、とても緊張した様子でした。お母さん方は学生に合わせて子どもたちと体を動かしたり、話に聞き入ったりとゆったりとした時間になりました。

特に印象に残った場面は、お母さんが学生のパネルシアターに興味をもち、実際に手にしながら、パネルシアターの構造(作り方など)を学生に質問していたことです。お母さんからの質問に丁寧に受け答えをされていて、そこから学生の授業や就職の話題にまで発展し、会話が弾んでいました。最初の緊張した表情が嘘のように、学生の明るい表情や声に、こういった短い時間であっても、保育の専門的な学びの他にコミュニケーションをはかる大切な学びの時間にもなっていると感じました。



◇ クリスマス会 ◇ 12月21日(木) 10:30~13:00

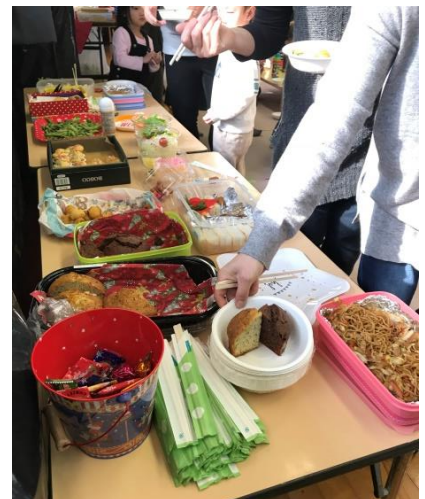


昨年はお母さん企画の忘年会がありましたが、今年はお母さんとスタッフの合同企画でクリスマス会を行いました。運営委員会のお母さんが中心となり、我が子へのプレゼント(サンタクロースより手渡し)や一品の料理(菓子・果物含む)を持ちよる、ラッフルチケット(宝くじのようにチケットを希望の枚数購入し、そのチケット代から景品を購入)などの案が上がりました。当日の出し物として、有志のお母さん4名が何度も練習をし、クリスマスにちなんだ絵本を一冊と手作りのサンタクロースの着せ替えの話を披露してくださいました。

出し物から会は始まり、子どもも大人も一緒になって楽しめるものだったので、会場内は笑い声が沢山響いて、作品のクオリティー

の高さに参加したお母さんや様子を見に来た職員・学生にとても好評でした。出し物も終わり、有志のお母さん方が進行をしている時に、鈴の音が聞こえてくると、「あ！サンタさんが来たのかも！」と幼稚園児の子どもたちは期待し、ようやく姿が見えたサンタクロースの登場に泣き出す子もなく、興奮した様子でした。お母さん方がサンタクロースに手伝いを頼まれ、プレゼントに書いてある一人ひとりの名前を読み上げていき、直接サンタクロースからプレゼントをもらうとどの子も嬉しそうな表情にお母さん方も嬉しそうでした。サンタクロースへの質問タイムがあり、普段は恥ずかしくて大勢の人の前では話が難しくなってしまう子も、積極的に手を挙げて質問する姿が見られ、こういった子どもたちの微笑ましい様子にも成長を感じる瞬間でした。

出し物後には、サンタクロースに『ラッフルチケット』の抽選をしてもらいました。景品は6位まででしたが、商品券や健康グッズ、お菓子、コーヒーショップのチケットなど、「普段は気になっても自分では買わない、もらったら嬉しい物」「ちょっと面白い物」といった内容で景品は様々で、1位の景品が当たると、「運がいいね！」と抽選会もとても盛り上がりました。



さて、メインの食事は、ビュッフェスタイルで、各家庭から一品持ちよった手作りのサンドイッチ、チキン、サラダなどの食事やカップケーキにマフィン、お菓子とたくさんの種類並べられました。「おいしい」という言葉は勿論のこと、「こういう作り方（味付け）もあるんだね」「この盛り付けオシャレだね」「みんなで食べると楽しいね」と和やかな食事となりました。普段はあまり交流がないお母さん同士でもゲームをきっかけに楽しそうに会話をする



ともありました。

当日の会場準備から片付けにおいても、互いに子どもを見合い、気遣いながら行われ、自分ができることをできる範囲で協力し合うことが当たり前になっていると実感しました。日々感じていることですが、「お客様とスタッフ」という意識ではなく、「お互いさま」「みんなで創るひろば」といったお母さん方の思いや行動に触れられることはとても多く、沢山の協力があるからこそ現在のたいむがあると思うととても嬉しくなりました。

◆ お知らせ ◆ 1月25日(木)、26日(金)の2日間、たいむのお休みをいただきます。

全国各地の子育て支援スタッフが集まり、「現実と向き合う子育て支援とは～今私たちに求められている子育て支援を考える～」というテーマの実践セミナーに参加することになりました。

「育ちあいのひろば たいむ」が日々大切にしていること、活動内容・実践記録などといったことをまとめ、各地の支援スタッフとの意見交換や他の施設の実践報告を聞くことでより学びを深め、スタッフ自身のスキルアップや今後のたいむに活かせるようにと思っています。

みなさんにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、閉室期間について、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

◇ 第8回 たいむを育てる会(運営委員会) 議事録 ◇ 12月21日(木)13:00～14:20

1. 1・2月の行事予定

- ・1月9日(火)より、通常開室 ➡ 正月を祝おう!を企画 ・内容は正月の遊びや七草粥を食べるなどを検討中
- ・節分について ➡ 石井ゼミ企画と合同で行うことを検討しているため、1月末に行う予定(詳細は後日)

2. その他

- ・12月22日(金)のクリスマス会、最終打ち合わせ(準備や当日の流れなどの確認)
- ・石井ゼミ生より、学生企画について保護者から感想をいただく(反省点や改善点)

【スタッフより】

・学生が運営委員会に参加することで、子育て中のお母さんの生の声が聞くことができます。また、貴重なご意見やご感想は、スタッフを含め学生自身の気づきや学びに繋がるため、とても嬉しく思います。

次回は、1月下旬を予定 ・2、3月の行事予定など

*たいむでは、本来、利用者と一緒に創る広場を目指しています。

今年度より、利用者の視点をさらに入れていきたいという想いと、広場の内容をもっと利用者に見えやすくするために、「たいむを育てる会(運営会議)」を開催しています。

(運営委員は、2月から募集をかけ、立候補してくださった6名の利用者の方です)

*石井ゼミが2名参加。

会議での保護者とスタッフの意見交換の様子など、個々にメモを取っています。どのような雰囲気や、どのような意図があって企画を立てているのかなど、子育て中のお母さん方の生の声や現状を知れる良い機会でもあります。

◆ **正月を祝おう!** ◆ たいむでもお正月を祝いませんか? 正月あそびをしたり、七草粥を食べたりしながら日本ならではの文化に触れられるようにと考えています。

【日 時】 1月9日(火) 11:00~

【場 所】 たいむ



◆ **学生による うたとおはなしのひろば** ◆



短大教員の池谷先生のゼミ生による、「うたとおはなしのひろば」です。昼休みに、季節の歌やパネルシアターを行います。ぜひ親子でご参加ください。

【日 時】 1月16日(火)・1月30日(火) 13:00~13:30

【場 所】 図書館 絵本コーナー

◆ **おはなし会(あそび実践演習)** ◆

短大教員の高森先生の授業で、学生たちが手あそびや絵本の読み語りをを行います。たくさんの「おはなし」に出会いに来ませんか? ぜひ、親子で一緒にゆったりとした時間をお過ごしください。

【日 時】 1月10日(水)・1月12日(金) 13:00~13:30

【場 所】 図書館 絵本コーナー

◆ **もちつき たいむ** ◆ ※ 今月のまんぷくCAFEと合同になります。

今年もみんなで力を合わせてお餅をつきませんか? 餅米を蒸かしたり、杵でついた餅を返したりなど、お父さん・お母さんのお手伝い大募集!(詳しくはスタッフまで)

【日 時】 1月20日(土) 11:00-14:00頃

【場 所】 短大 中庭

【持ち物】 箸・皿・飲み物・餅につける物(のり・しょうゆ等)

【参加費】 大人 300 円 子ども 100 円

※おおよその人数を把握するため、事前に予約していただくと助かります。



◆ **リズム室であそぼう!** ◆ 巧技台やフープ、すべり台など、身体をたくさん動かしてあそびましょう!



【日 時】 1月18日(木) 10:00~12:00

【場 所】 短期大学2号館 リズム室

【参加費】 一日会員:100円(保険料)

※ たいむが初めての方も大歓迎です!

【持ち物】 着替え・タオル・飲み物など

◆ **節分の豆まきをしよう!** ◆

邪気をはらい、歳の数(トシノトビ)の豆を食べて1年の無事をみんなで祈りましょう。こわい鬼は登場するのでしょうか...?!

【日 時】 2月2日(金)

【場 所】 たいむ ※詳細は後日お知らせいたします

